組合活動は私の誇り
苦労多いが職場新聞を

松本剛泰

「あなたは昭和二十六年四月九日入社以来三十九年間引き続き勤務されこのたび定年退職されることになりました……表彰致します」

この一枚の紙切れが、私にとって目に見えない大きな壁を取りはずしたという感じがしてなりません。三池闘争以来、年々組合員の減少と差別とのたたかいは激しさを増し、石炭産業が斜陽化し次々と合理化が進む中で三川鉱の大爆発が起こり、多くの仲間が殺されました。

活動家の指名解雇と三川鉱大災害が、私の心を動かし、労働組合の活動に何事にも前向きの姿勢で、微力ながら頑張ってみようと決心させたのでした。

職場の役員や地域の役員の経験がない私に、何ができるのだろうかと考えたこともありましたが、その後運転手としてCO支援オルグ活動の九州キャラバン隊に加わり、やがて全国に向けての物資販売オルグを開始しました。

活動経験のない私が、はじめて三池の実情を報告しCO物資販売支援の訴えをした時は、足が地についていない感じで何を言ったのか分からないくらいでした。

オルグ活動の中では、交流を通じて他の組織の実態を知り、三池の火を消すなと物資販売の支援に積極的に協力してもらったことは、労働者の連帯感の力強さを身をもって感じることができました。

オルグの経験から、その後職域の「みいけ生協」に移り、食品公害追放運動の地域市民生協で七年間活動し職場に復帰しました。

職場では、先輩委員の定年退職のあとを引き受けて職場委員になったのですが、分会の運営などについては不安がいっぱいでした。

組合の活動方針の一つとして職場新聞の発行が提起されたとき「よし、これはぜひ実現しなければ」と、さっそく取り組みました。困難なときほど職場新聞の存在は重要だし、毎月の発行には骨が折れますが、苦労しながらも私が定年退職するまで発行できたのは最大の喜びでした。今後の継続を願い、他の分会でも取り組んでもらいたいと切に望みます。

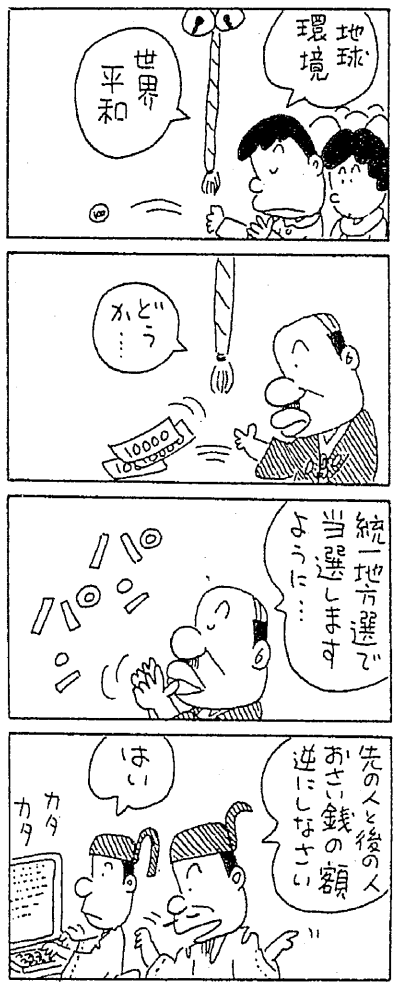
長いたたかいの明け暮れでしたが、組合の活動に加わったことを誇りに思うとともに、多くの先輩のご指導と分会の皆さんのご協力に心から感謝しています。

× ×

「基準解雇」で二年半は定年退職者がなかったのですが、今年からまた……。松本さんはその二人目。『やま』の発行をよろしく。

新春漫歩

芝岡久友 徹



姿見

上京に思う

大牟田ブロック 太田圭子

昨年の十二月三日から三泊四日の日程で、炭労結成四十周年祝賀会と第九次石炭政策確立をめざす石炭労協の中央行動に参加するために上京しました。

わずか四日間ですが、私がこんなに家を空けるのは結婚以来はじめてのことです。

私が居ない間の食事の世話や四月に催される息子の親子レクリエーション。娘の期末テストなど気にかかることばかりです。

前日は、おかずの作り置きをしたり洗濯や掃除。その他いろいろのことを主人と娘に頼むなど、出発当日までバタバタでした。

当日は、三池主婦会初代会長の五島さんをはじめ吉田さん、平川さん、藤田さん、それに私の五人が大牟田駅に集まり、八時二十四分発で一路東京へと発ちました。

その日は夕方から祝賀会に参加。翌日、藤田会長と私は北海道の各炭鉱から上京された炭婦協の皆さんと一緒に女性だけの行動で、議員会館や通産省に行き現存炭鉱の維持・存続を要請して回りました。

三日目は通産省前での座り込み、社会文化会館で開かれた決起集会のあと、暗くなった東京の街を一時間近くデモ行進し、日比谷公園で解散しました。

三日間の行動がすべて終り、明日は帰るだけ。そう思ったら急にわが家のことが気になりだしました。

六日、大牟田駅に着き心はやって帰宅すると、畳替えがあったとかで家の中は片付いていません。洗濯物は溜っているし、おまけに主人が風邪。ホッとする暇もありません。

主婦が家を留守にするのは大変なことだと痛感しました。でも家族のみんなに、私が居ないといかに困るかということを認識させたことは、今度の上京の思わぬ成果だったと思っています。

第九次石炭政策への基本的態度と要求

「第九次石炭政策」については、石炭産業が今日まで果たしてきた役割を再評価するとともに、長期エネルギー見通しを十分勘案して、

一、基本的な態度

①資源の有効活用
②安定供給
③技術・技能の温存
④産炭地域振興
⑤雇用確保

などの観点に立った位置付けを明確にして、石炭産業の維持・存続に必要な、

①需要の安定的確保
②各種助成措置
③適正炭価
④坑内にふさわしい労働条件

などに関する施策の確立を要請する。

また、これらの推進に当たっては、一定の政府資金の投入を前提とした所要資金（石炭対策特別会計）の確保と存続を要求する。

資源小国日本の大きなエネルギー資源は石炭である。この貴重な国民の資源を縮小・閉鎖することは国家資源の永久的放棄であり、世界有数の技術・技能の損失である。また、再起不能な産炭地域の崩壊を意味している。

われわれは縮小・撤退を求めた第八次政策を根本的に転換し、石炭産業の長期安定と産炭地域振興ならびに雇用確保を期す「第九次石炭政策の確立」を強く求めるものである。

二、基本的な要求

1、現存炭鉱の維持・存続

①国内炭の位置付けを明確にし、長期的に一千万トン程度の安定的需給体制を確立すること。

②IQ制度ならびに基準炭価制度を存続すること。

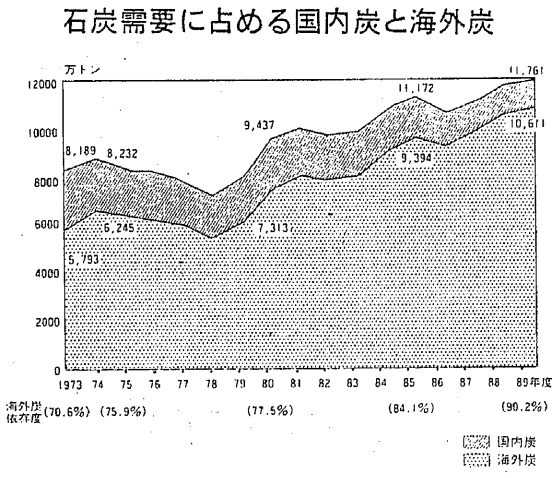
③流通機構の一元化、炭鉱施設の共同利用など、石炭産業の近代化をはかること。

④国内炭生産会社に一定の輸入炭枠を与え、国内炭と輸入炭の購入と販売を行う新機構を設立すること。

⑤経済基盤の体質強化をはかるため、現行各種助成制度の充実・強化と交付助成基準の見直しをはかること。

⑥労働諸条件については労働時間短縮を含め、地下産業にふさわしい水準とすること。また、技術・技能者および若年労働者を確保する対策を講じること。

（以下省略）



お詫び

昨年十一月二十五日開催の「三池闘争三十周年記念の集い」でのご芳志の紹介で欠落がありましたので追録致します。衆議院議員細谷治通様。前衆議院議員細谷治嘉様。

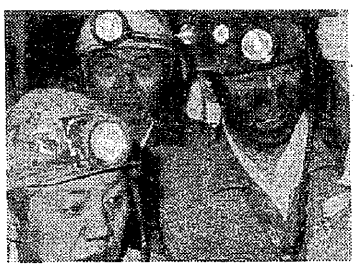
貴重なエネルギー資源『国内炭』

親子問答

いま「ポスト八次策」ということで、いかに国内炭を撤退させるかという論議が石鉱審で交わされています。国内炭の必要性について親子の問答で……。

子……お父さん、日本の炭鉱はだんだん小さくなっていくけれど、日本ではもう石炭はいらないの。

父……いや、それは逆なんだよ。日本の国民が使う一次エネルギーには、石炭をはじめ、石油、天然ガス、原子力、水力などがあるんだが、その中で石油が五七・三%と一番大きな比率を占め、石炭は二番目で一八・一%なんだよ。



しかも、現在日本で約一億一千万トン使われている石炭が、二〇〇〇年には一億四千二百万トンに増える見通しなんだよ。

子……そんなに需要が増えるなら、なぜ日本の炭鉱をつぶして外国からばかり輸入しているの。

父……政府や石炭を使う企業（電力、鉄鋼、セメントなど）は、外国炭が安定的に輸入できるし、値段も国内炭に比べると半分ですむというんだよ。いつまでもその状態が続くとはかぎらないと思うんだけどね。

炭鉱は、一度閉山してしまうと再開発するには一からの出直しで、巨額の資金と日時がかかるんだよ。

子……日本には、いまどれくらいの石炭があるの。

父……実際に掘れる量で約十億トンの石炭が地下に眠っていて、今後百年は掘れるんだよ。

エネルギー資源を外国に頼っているのは日本人ぐらいかな。フランス、ドイツ、イギリスなどでは自分の国のエネルギー資源を大切にしているよ。

子……お父さん。これまで閉山になった炭鉱の町や、やめていった人たちはどうしているんだろう。

父……八次策が実施されてから十一あった炭鉱が現在六つになり、マチの振興対策も進まず、炭鉱労働者の平均年齢が高いことから、なかなかその人たちに合った職が見つからなくて、一万三千人の炭鉱離職者の再就職は半分ぐらいしか決まっていないという、きびしい状態なんだ。

子……この町でも、社宅などの空き家が多くなって人口も減ったね。友達も転校していってさびしくなってきたよ。お父さん、ここのヤマは大丈夫だよね。

父……いまのままではどうなるかわからないよ。なんとかヤマを残して地域を守る第九次石炭政策をつくってもらわなければ、お前たちの将来のことが心配で、落ち着いて仕事もできないよ。だけど、事故だけは気をつけないとね。

父・子……みんなが安心して働けるような政策ができるといいね。